

民児協だより



—支えあう 住みよい社会 地域から—



こんな時だからこそ顔が見える場を大切に

まなごし

小田原市民児協では、毎月1回、市内26地区の地区民児協会長が集まり、理事会を行っています。

理事会では市民児協として行う各種の事業や、関係団体からの依頼への対応など、会の運営に関わることを話し合いますが、理事会が終了したあと、続けて、会長会という会議を行っています。

会長会は地区民児協の運営などについて、他地区の様子を聞いたり、民生委員・児童委員活動につい

て意見を交わしたりといった、地区会長同士の情報交換や相談の場となっています。

今年の会長会では、新型コロナウイルス感染症が委員活動にも影響を与えている中で、地区民児協の活動をどうしていくかなど、グループ討議の形式で、活発に意見を交わしています。

(小田原市民生委員児童委員協議会)

◆特集 改選から1年。今後の委員活動を展望してみましよう

～新型コロナウイルス感染症により見えてきた課題を踏まえて～

- 解説 (やさしい日本語)
- NEWS & インフォメーション(海老名市民児協 民生委員・児童委員のためのQ & A集でステップアップ 他)
- 通信員だより(横須賀市・厚木市・松田町)



特集

改選から1年。今後の委員活動を展望してみましよう

新型コロナウイルス感染症により見えてきた課題を踏まえて

広報委員会では、単位民児協会長に向けて「今後の民生委員児童委員活動を展望するアンケート」を実施し、163名から回答をいただきました(回答率84・5%)

この1年間の委員活動はいかがでしたか。昨年の一斉改選後、間もなく新型コロナウイルス感染症(以下、新型コロナウイルス)が蔓延し、地域生活や委員活動にも影響がありました。そのような中、「今後の委員活動はどうあるべきか」など、思いを巡らす時間もあつたのではないのでしょうか。

そこで、この紙面では、「今後の委員活動を展望するアンケート」から、非日常の中で見えてきた様々な課題を概観するとともに、新型コロナウイルスに対応しながら行う今後の活動に必要なことを、展望したいと思います。

今地域では何が起こっているのか

「コロナ禍で見えてきた課題」について質問をしたところ、多岐に渡る課題が見えてきたことが分かりました。

1. 心理的な課題

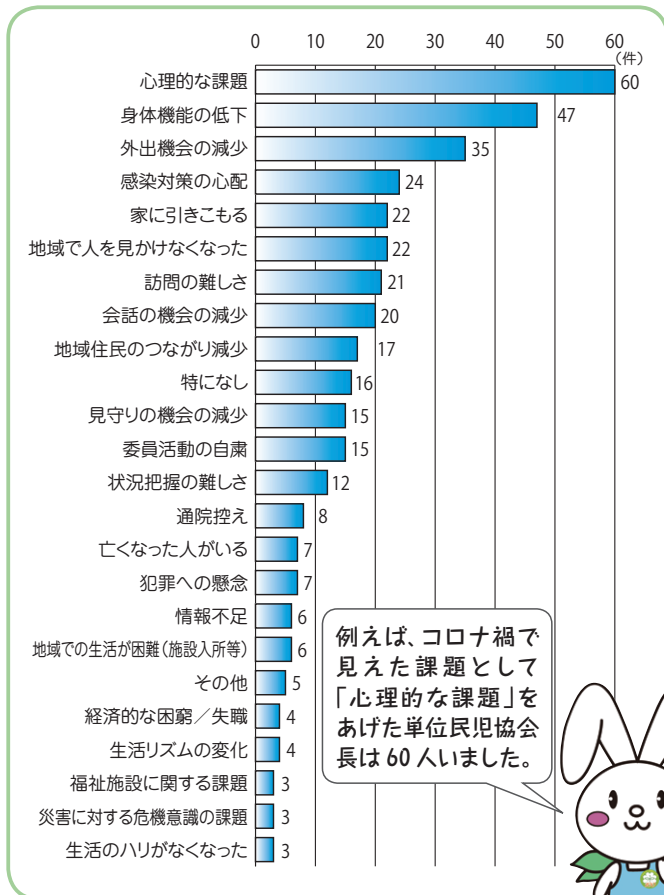
アンケート回答者の3分の1以上は、「集いの場や食事が中止になり、会話する機会がないため、高齢者がストレスを抱えている」、「不安感から夜眠れない人が増えている」、「散歩していても出会う人もおらず寂しいと言う住民がいる」といった心理的な課題への懸念をあげました。そのため、「たまに出会うと会話がいつもよりも長時間になったり、精神的に不安定になって電話をしてくる人が増えた」という回答もありました。

2. 身体機能の低下

「外出が減り、脚が弱ってすぐ息が切れてしまうと聞いた」、「ひとり暮らしで認知症の症状が出た方がいたため支援センターにつないだ」、「感染を恐れて通院を控えたため持病が悪化した」など、健康状態が悪化した住民が多くいることが分かりました。

「コロナ禍で見えた地域や生活の課題」に関する回答

※ 数値は、163名の自由記述の回答から抽出した内容を集計した複数回答です



例えば、コロナ禍で見えた課題として「心理的な課題」をあげた単位民児協会長は60人いました。



地域との交流が減ったことで、気力低下や体調不良により、自宅での生活が困難になったことから、遠方の子の家に引越したり、福祉施設に入所した住民もいたようです。家で独りで亡くなった高齢者のケースに関わった委員も複数いました。

3. 地域に人がいなくなった!? 「地域に人がいない」と感じた委員も少なくありませんでした。訪問をしても、「会うのは控えない方も少なからずいました。普段は日中にスーパーで買い物をしてる方が、今は早朝に近所のコンビニで買い物を済ませていたり、配食サービスを利用し始めて買い物に行かなくなったなど、生活リズムが変わって、普段良く顔を合わせていた住民に会えなくなったケースもあるようです。

新型コロナウイルス前後で変化した委員活動

地域生活の変化に加え、委員活動にもいくつかの変化がありました。

1. 工夫を凝らした見守り・訪問活動

多くの委員が対面する時間や機会を減らしながらも、住民とのコミュニケーションを図ろうと工夫していました。

緊急事態宣言下など訪問ができない時期は、「近況を伺うため、民児協で共通の手紙を書いてポストインした」、「電話、手紙、ファックスを駆使して安否確認をした」、「訪問に代わり家のまわりを確認する機会を増やした」、「インターホン越しに会話をした」など、試行錯誤していた様子が伝わってきます。

訪問を再開した民児協では、「『感染対策をして活動しています！』というチラシを作成して届けた」、「相手に不安を抱かせないようにフェイスガードやマスク等を用意して訪問した」などがあげられました。訪問する際には、メッセージカードや委員の顔写真入りのチラシ、正しい手洗いや消毒の方法、熱中症予防、運動不足解消体操などのチラシ、手作りマスクや水分補給のためのビタミンゼリーを持参したり、フード

バンク団体と協力して食料の無料配布を行った民児協もありました。

長い時間、対面できない状況であつても、訪問のきっかけをつくり、相手の表情を見ながら、出来る限り耳を傾け、工夫を凝らして活動する委員の姿が垣間見えました。

2. 委員同士の連絡方法の工夫

委員同士の連絡については、電話のほか、メールやラインの活用をはじめたという回答が、36件ありました。必要な連絡事項が「斉」に送れる点で、効果があつたようです。

しかし、すべての委員がスマートフォンやパソコンを使っているわけではないため、役員のみで活用したり、ショートメールを使って連絡をしているという民児協もありました。

また、「必要な連絡事項を紙面にまとめ、定例会会場付近の路上で、ドライブスルー形式で委員に伝えた」という回答もあり、それぞれの民児協に合った連絡方法を模索・実施していることが分かりました。

3. 定例会や研修会の工夫

定例会は、密を避けるため、広い会場を確保しての開催や、役員のみでの開催、少数のグループに分けて開催するなどの工夫がみられました。他にも、「少人数の部会を広い公

園で『青空会議』として行った」という回答もありました。また、思わぬメリットとして、「総会の協議事項やポイントを紙面にまとめて質問欄を設けたところ、通常の総会よりも意見や質問が出て有意義だった」という民児協もありました。

研修会は、殆どの地域で中止になりました。一方で、「小グループや専門部会ごとで研修を行った」、「知識を得るため、資料や書籍を読む時間を設けた」、「講師と一緒に屋外でできるテーマを設定して実施した」という民児協もありました。

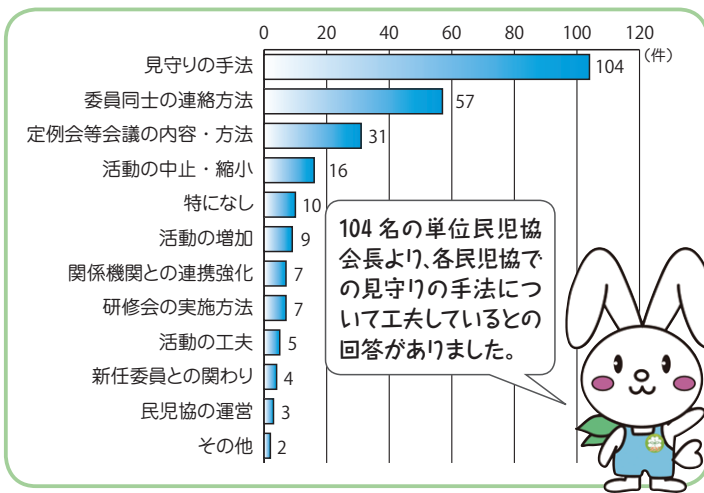
また、新任委員に活動内容を伝えることができず、必要なことを学んでもらう機会が無くなった不安は、多くの民児協に共通していました。反面、ある新任委員は「活動が少なかったため、必要なことをゆつくり覚えていけるので安心していきます」と言います。今後の活動に備え、焦らずゆつくり学ぶ時間をとることも、今だからこそできることかもしれません。

4. 関係機関との連携強化

住民との直接的な関わりが難しくなつた一方で、地域包括支援センターや社会福祉協議会、自治会との連携が強化されたとの意見がありま

した。

例えば、見守りを自治会や社会福祉協議会の推進員と協働で行ったり、感染予防や健康体操のチラシなどを地域包括支援センターが用意してくれたということもあつたそうです。「募金活動やイベントの実施判断等のため、自治会や行政等と協議を重ねたこと」で、顔が見える関係ができた」という民児協もありました。普段は頻繁に実施することが難しい地域包括支援センターとの交流会を、今だからこそ行っているという民児協もあるようです。



「コロナ前後で変わった委員活動」に関する回答

※ 数値は、163名の自由記述の回答から抽出した内容を集計した複数回答です

今後の委員活動で必要だと思つこと

1. いつもどおりの活動の大切さ

このような非日常を過ごす中で、多くの委員が感じたことは、「いつもどおりの活動の大切さ」です。

「何も考えず開催していた定例会がいかに大切だったかを痛感した」、「対面で相手の気持ちを考えながら接することが本当に大事だと気付いた」という意見がありました。

また、この時期に、訪問拒否の方や、委員不在地区の方が孤独死したケースもあつたそうです。「コロナ禍に関わらず、こまめに連絡を取ること、相談があるときに応えることのできる信頼関係や必要な情報を得ておくことが大切だ」という意見もあり、今まで何気なく行つていたことが、委員同士の連帯感を生み、住民の支えになっていたのだと、あらためて気付かされました。

2. 今後の活動のために必要なこと

一方で、ピンチはチャンスでもあります。アンケートでは、今後の活動に必要なこと、提示いただきました。

①委員の役割の原点を振り返る

「地域に必要なことは何か」、「委員だからこそやるべきことは何か」

について、今一度考えたいという意見が多数あり、多くの委員が、「委員の役割は何か」をあらためて考えたのではないかと思います。今回は新型コロナウイルスがきっかけとなりましたが、定期的に振り返りの機会を設けることは、今後も必要です。

②委員活動・民児協活動を見直してみる

「これを機に、これまでの民児協活動内容や事業を見直してみようと思う」、「新型コロナウイルスが収まらないうちは、優先度の高い活動を中心にやつていく必要がある」。また、「今までの活動に関連して学ぶ時間をとることも大事ではないか」という意見も多くありました。

県民児協でも、地域版活動強化方策作成への取り組みを呼びかけています。委員活動・民児協活動について振り返る機会を兼ねて、活動強化方策について検討をしていくのも一つです。

③委員同士の交流の機会をつくる

特に非常時は、委員同士の協力や情報共有の大切さを痛感します。感染対策をしたうえで、委員同士で対話をしたり、考えや思いを、共有する時期として捉えても良いのかもしれない。

ある単位民児協会長は、「定例

会で、『お互いの知恵を出し合つてこのコロナ禍を乗り切ろう』と呼びかけている。それぞれの危機意識の中から何が生み出されるか、その過程も大切にしたい」と言います。また、「委員同士で交流を深め、長く委員を務めてくれるように話し合う機会にしたい」との意見もありました。

④関係機関との連携について考える

「新しい生活様式での活動は続くが、高齢者の心身機能の低下は待つてくれない。早めに異変に気付けるよう、関係機関とともに知恵を絞つていくべきではないか」、「新型コロナウイルスやその他の災害から、どう地域を守つていくか、自治会長と話し合いを進めるべきだと思う」との意見もありました。

新型コロナウイルスの影響を受け、今以上に地域で助け合つていく必要があることを、多くの委員が感じたようです。行政や地域包括支援センター、自治会、社会福祉協議会等との連携を深めていくことも大切です。

⑤新たな仕組みの導入に向けた検討をする

先のまとめのとおり、メールやラインなど、オンラインの仕組みを導入した民児協もありました。実際

に会うことが一番大切であるという前提に立ちつつ、必要に応じて、オンライン会議やビデオ通話での見守り、インターネットやDVDでの研修実施やホームページでの情報管理なども検討してはどうか、という提案もありました。移動時間や交通費の節約、日程調整のしやすさなどが利点として考えられます。

しかし、新たな仕組みを取り入れるときには、委員の十分な理解と合意が大切です。意見を出し合い、丁寧な話し合いを心掛けたいものです。

委員の本質は変わらない

新型コロナウイルスにより、変わったこともありました。住民の身近な相談相手として「寄り添う心」が変わるわけではありません。本アンケートでも、思いやりを大切に、委員同士や事務局、行政、その他関係機関とともに、協力して知恵を絞りながら、できることを懸命に実施している実態が明らかになりました。

今後も変わらぬ本質をもって活動していくために、本アンケートから見えた工夫や取り組みを参考にさせていただければ幸いです。

「やさしい日本語」という言葉を耳にしたことはありませんか。これは「簡単な言葉を使う」「一文の長さを短くする」などが理解しやすいよう配慮した日本語のことです。平成七年の阪神淡路大震災の際、日本語が十分理解できなかったために必要な情報を得ることができなかった人がいたことをきっかけに生まれました。近年は災害時の情報提供の他、行政や報道機関などでも用いられるようになり、広がりを見せて

「やさしい日本語」とは？

「やさしい日本語」という言葉を耳にしたことはありませんか。これは「簡単な言葉を使う」「一文の長さを短くする」などが理解しやすいよう配慮した日本語のことです。平成七年の阪神淡路大震災の際、日本語が十分理解できなかったために必要な情報を得ることができなかった人がいたことをきっかけに生まれました。近年は災害時の情報提供の他、行政や報道機関などでも用いられるようになり、広がりを見せて

解説
やさしい日本語
 外国人住民の安心や喜びにつながるように
 (公財)かながわ国際交流財団に「やさしい日本語」について解説いただきました。

やさしい日本語の主なポイント

書くとき

- 要点を伝える
- シンプルでわかりやすい絵や写真を利用する
- やさしい言葉や表現、やさしい漢字を使う
- 漢字にルビを振る
- 一文が短く、主語と述語の関係がわかりやすい
- 意味のまとまりで区切り、スペースを空ける

話すとき

- 聞き取りやすいように発音する
- 難しい言葉は日常会話で使う言葉に言い換える
- です・ます調で話す
- 相手がわかっていないと感じたら、ゆっくり繰り返したり、言い換えたりする
- 写真や絵、実物を利用する

(公財)かながわ国際交流財団(2019)『やさしい日本語でコミュニケーション』を基に作成

<お問合せ>

公益財団法人かながわ国際交流財団
 ☎045-620-0011 <http://www.kifjp.org/>

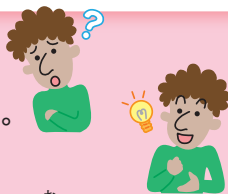
2つの文章を比べてみましょう

元の文章

大きな地震が発生しました。
 またその後も余震が続いています。

やさしい日本語

大きな地震がありました。
 地震は1回ではありません。何回も起きています。



「やさしい日本語」のポイント

では、どうすれば「やさしい日本語」にすることができのでしょうか。ここで、外国人住民も理解しやすい「やさしい日本語」が活躍します。円滑なコミュニケーションのため、皆さんは普段から様々な工夫することと思いますが、その一つに「やさしい日本語」を取り入れてみてください。外国人に限らず、子どもや障がいを持つ人など読み書きが難しい人にも活用できます。

では、どうすれば「やさしい日本語」にすることができのでしょうか。

民生委員・児童委員に期待すること

外国人住民の中には日本語が難しく、不安を抱えながら暮らしている方がいます。民生委員児童委員の皆さまが「やさしい日本語」で接してくだされば、それは外国人住民の安心や喜びにつながると思います。「やさしい日本語」の活用が皆さまの外国人住民とのつながり作りのきっかけとなることを期待しております。

外国人住民の中には日本語が難しく、不安を抱えながら暮らしている方がいます。民生委員児童委員の皆さまが「やさしい日本語」で接してくだされば、それは外国人住民の安心や喜びにつながると思います。「やさしい日本語」の活用が皆さまの外国人住民とのつながり作りのきっかけとなることを期待しております。

(公益財団法人かながわ国際交流財団)

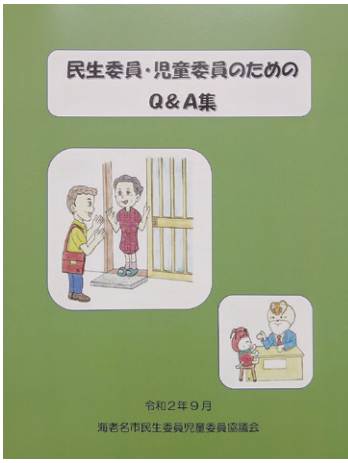
NEWS&インフォメーション

「海老名市民協」民生委員・児童委員のためのQ&A集でステップアップ

海老名市民協では令和元年12月の一斉改選で半数近くの新任委員が委嘱されました。経験の浅い委員でも日々の活動に役立つように、地域独自の課題に密着した分かりやすい『民生委員・児童委員のためのQ&A集』（以下、Q&A集）を令和2年9月に発行しました。

具体的に事例の対処法、解説、そして関連機関の連絡先まで明示されていて分かりやすいガイドブックになっています。なかでも、新任委員にもわかるように**「ここがポイント！やベテラン委員のヒント」**などアドバイスがあります。

今期新任委員が多い西部地区ではQ&A集を使った学習会を行っています。



各市町村に1部お届けしています。



「民生委員・児童委員のためのQ&A集」を使って学習会

たそうです。「コロナ自粛で何をしたら良いかわかりませんでした。Q&A集を読み活動の参考になりました」、「一科目としては非常に力になります。さらに追加・修正してより良いものになっていくことを望みます」との声があり、継続委員からは「具体例は大変役に立ちました。改めて初心に戻って活動を考えてみようと思います」などのご意見やご感想や、編集委員会への感謝の言葉が多数ありました。

Q&A集にこめた思いと

誕生秘話

中部地区民協前副会長・鹿原英門氏より発行までの経緯を語っていただきました。「きっかけは退任を決めた時にこれから活躍される委員への置き土産にしたいという思いからでした。会長の強い思いも重なり、地区民協版に限定せず海老名市民協版として編集することに方向転換し、編集委員会を設立しました。コロナ禍で幾度となく会議を延期せざるを得ませんでした。事務局、編集委員のご尽力により製本配布することができました。未だにコロナ感染症終息の兆しは見えず、民生委員・児童委員活動も自ずと影響を受けることとなります。民生委員・児童委員活動の参考になれば幸いです。」

こうした思いから出来上がったQ&A集ですので、新任委員の皆さんには、まず最初にこれさえ読めば基本的な活動が始められるといったベースとなる資料として活用していただければと思います。

（広報委員 倉橋郁子）

編集

雑感

5月、5歳と3歳の孫を預かることになり、食事ははじめ生活スタイルが一変した。叱ったりなだめたり、へとへと毎日。

7月、安静入院から出産を経て、娘と新生児が合流。疲れは孫の寝顔でプラスマイナスゼロ。

8月、産後療養を終えた娘と孫を送りホッとしたのと同時に、休校休園期の家庭を思った。「みんな大変だったね。頑張ったね。」

今回特集のアンケートからも、人々の戸惑い・委員さんの努力や工夫が伝わってきた。これも、アンケートに協力いただいた皆さんのおかげと感謝いたします。まだまだ先は見えないけれど、医療機関をはじめ現場で闘う方々にも「ありがとう！」

（広報委員 西村恵美子）



県立足柄上病院の入口に、感謝と激励のメッセージが貼られていました。

第89回全国民生委員児童委員大会
変わらぬ本質を大事に

新たな時代へ

新型コロナウイルスの影響で、今年度の全国大会は、10月22日、新横浜プリンスホテルを会場に、プログラムも縮小して開催されました。

大きなスクリーンに登壇者が映され、民生委員信条と「花咲く郷土」は心の中で唱えるという例年と異なる形ではありましたが、会場には厳粛な一体感が満ちていました。

式典に次ぐシンポジウムは「活動強化方策を通して今後の民生委員活動を考える」。全児連の池永副会長、宮田副会長から、地域社会の変

容に加え、コロナ禍のもと、民生委員活動の本質を大事にしつつも、新たな活動方策や委員



間のコミュニケーションの重要性が増していることなどが語られました。

高崎健康福祉大学・金井教授からは、活動強化方策は委員間の情報共有の一手段であり、作成の過程が大切、と改めて強調されました。

また、福祉課題の多様化・複雑化に対し、民生委員と多様な主体との協働が必要であり、そのために行政、社協、地域包括支援センター等の専門機関が民生委員活動をサポートしていく必要性があること。強化方策は、民生委員活動をこうした関係機関に知ってもらった道具として活用できる、といった考え方も提示されました。

最後にコーディネーターの同志社大学・上野谷名誉教授から「民生委員の気づきやカンは、暮らし人としての生活の経験知と情熱がもとにある。これを大切に、ひたすらつながる活動をしてほしい。しかし、一人ではしんどい。ぜひ仲間と一緒に地域の幸せづくりに向けてこれからも頑張ってくださいたい。」と、あたたかいメッセージが送られました。

児童委員・主任児童委員活動推進会議
「生活者として
子どものためにできること」

新型コロナウイルス感染症の影響で集合型研修の大半が中止となる中、本年度初めての県民児協集合研修として、去る11月19日、「令和2年度 児童委員・主任児童委員活動推進会議」を関内ホールにて開催しました。講演いただいたのは、沖縄大学名誉教授の加藤彰彦さんです。

冒頭お話しされたのは、加藤さん自身がずっと委員をやりたいと思っていたという「民生委員・児童委員への憧れ」です。今も委員ではないけれど、委員のような活動をしたいと、老人クラブ会長として、高齢者だけではなく子どもとの関係づくりのために顔写真入りの名刺をつくったり、小学校の



加藤さんは、経て浜長を、小学校教員を経て、横浜市立大学教授、児童相談所、児童委員、児童委員活動推進会議の会長を務めながら、子どもとの研究をライフワークとしている。

給食に参加させてもらったりというエピソードもありました。また、「親子とかかわり『つながる』ための7つのステップ」を参照しながら、委員活動のヒント

や、委員活動によって地域住民活動が活発化されてきた実体験、そして、委員だけでなく、関係機関や地域住民とともに活動することの重要性も語られました。

最後に、「自立」とは、1人でもなんでもできるようにすることではなく、人に頼める・人から頼まれる、支え合う力があること。子どもも障害者も一緒に生きていく『支え合う力』の育つ、自立した地域づくりをとともに進めていきたい」と締め括られました。

今回はコロナ禍での開催ということもあり、40名という例年に比べて少ない参加者での開催となりましたが、熱心に聞き入っている様子が見られました。参加できなかった方も聴講できるようにDVDを作成し、各単位民児協に配布する予定ですので、ぜひご覧ください。



通信員だより

横須賀市

「活動記録」の簡便化を試行して

通信員 山岸 一男

新型コロナウイルス対応で世界が苦慮している現在、民生委員・児童委員の活動が制限されています。そこで、今年度から「活動記録」の簡便化について試行しています。

私は72才、今期で2期目に入りました。仕事と並行しての活動中です。過去の当市の児童委員のアンケートでも高齢化・仕事並行の傾向が出ていました。



前期中のストレスに「活動記録」の作成がありました。字が下手で、PCでメール等のやり取りをしながら活動日記のような記録を残し、月に数度に分けて正規の活動記録に転記し、提出しました。現在試行しているのは、同記録をエクセル表に落としただけの簡単なものです（PC技術能力はありません）。ただ転記の必要がなく、自動的に集計できるので作業効率が高まるのではと期待しています。活動記録は大切であること認識しています。当面継続し、同僚にも紹介しながら改善試行してみます。活動記録作成に要する時間が短縮し、他の業務への充当時間を増やすことができればと思っています。約半年以上試行しての感想は、同一PC内の「活動記録」と「個別援助票」の作業リンクージ（連携）が作業効率を高めるものと思料します。

※個人情報保護法に抵触しないよう入力しました。



厚木市

新型コロナウイルス禍における民生委員・児童委員の地域活動について

通信員 高田 幸夫

戸別訪問制限の中、4つの視点で活動中です。
(一)ライフスタイルの変化へのアンテナを張る

テレワーク導入等ライフスタイル変化の中で「家庭内環境変化（子どもを含めたストレス蓄積、家庭内DV）」「感染者、医療従事者家族への中傷、偏見」「失業により住居を失う人や生活保護を求める人」「介護施設の封鎖で行き場を失った高齢者」「学童の安全」等地域の状況変化、特に学童へのストレス影響に関心を持って見守っています。

(二)地区定例会会議運営への対応について

当初三か月開催出来ませんでした。その間「委員との30分間受付」により「活動指針の書面伝達」「資料手渡し」「近況確認」を行い、情報交換と地域全体の動きをとらえる機会としました。

(三)高齢者の孤立化、重症化を防ぐために

高齢者にとって、マスク着用、長期自粛生活の三重苦の年。繋がりを切らせぬため電話確認、PRカードの活用他、「マスクの効用」「主治医とのつながり」「新しい生活様式での心と体の健康維持」等の情報を都度ポスターングで啓蒙、提供中です。

(四)改めて民生委員の役割を考える機会について

寄り添う民生委員の役割や担当地域の特性を改めて確認する機会となっています。地域の協力を得、関係機関に繋げることを基本に、絆がとぎれないよう活動を続けています。

松田町

わたし達が近くにいます!!

通信員 山田 敏子

松田町民協では、「民生委員児童委員の曰」活動強化週間における取り組みの一つとして、老若男女を問わず多くの町民の皆さんに地域の民生委員の顔を知ってもらおうと手描きの地図に顔写真を載せたパネルを作成し、役場から幼稚園・小学校・子育て支援センター・社協へと巡回、展示しています。

新米ママさん達と交流の機会があった際、委員の氏名はもちろん居住地の名称さえ知らない方がいらっしやっただという話を聞き、若い世代に向けてもこちらから広く周知する必要がありますのではと考え企画したもので、子ども達の目を惹くよう地域のかわいいキャラクターも描かれています。

何か困り事があり悩んだ時、独りで抱えこまずに私達の存在を思い出し、てくれるようお願いを込めて。

今年に入ってから世の中は大きく変わり、暫くは、以前と同じ形での研修会や活動を行うことはむずかしいと思われるかもしれませんが、地域の委員として微力ながらも何ができるのか、模索する日々は続きます。



みんな、見てくれたかな？